（②　散　歩　編）

方塔園と松江倉城（老街）

１．緒言

松江（song1jiang1）区の生い立ちは、751年（天宝10年）に唐朝により華亭県が設置されたことに始まる。1912年に松江県と改称され、江蘇省の管轄とされた。1958年に上海直轄市の管轄となり、1998年に市轄区に昇格し現在に至る。松江の名称の由来は、中国江南の松江に、白潟や鱸（すずき）を産する自然環境が類似するところから松江と命名したという説（島田成規「松江城物語」）がある。

区内には松江唐經幢（きょうとう）や興聖教寺塔（方塔）等の歴史的建造物が残り、これらは重要保護文化財として保護されている。また区内佘山（しゃさん、she2shan1）には、清代に建立された佘山聖母大堂や佘山天文台が立地している。明・清時は松江府として全中国15大都市として名を轟かせていた。明・清の時代に松江府だった所は、蘇州河以南であり、現在大半は上海市に組込まれている。

明の時代では当初、上海には2県があり、その後管轄する行政区が変り清代末頃には7県（華亭、婁縣、上海、南匯、青浦、奉賢、金山）と1庁（川沙）になっていた。清代末には松江府上海県だったが今は逆に上海市松江区になった。

ここでは方塔園と明・清時代の古い街並みの残る松江倉城（老街）を紹介する。

２．方塔園

(1)沿革

方塔園は上海市内から西南側へ40キロ離れた松江区松江鎮（中山東路235号）に位置する。1981年に周辺の松江遺跡の発掘とともに、方塔を中心に周囲を整備し中国風庭園「方塔園」が完成した。土地面積は11.5万㎡（ヘクタール）と大きい。

この方塔の正式名称は興聖教寺塔（xing1sheng4jiao1si4ta3）であり、興聖教寺は五代時代の紀元949年に建てられた。旧興聖教寺の境内に、1068年から1094年にかけて現在も残る方塔が建造された。興聖教寺は1370年に焼失したが方塔は残った。この900年の間に何度も壊れその度に修復を繰り返し、1770年には大改修を行った。1981年の修理では出来るだけ古い木材を生かしながら改築し、現在の高さ42.5m、9層建てとなった。

元末に寺の方が壊されて塔だけ残り、明代になって塔の傍に「塔院」という建物が建てられたが、清代の1860年になってこの「塔院」もなくなったという。この間、多くの時代の変遷を経て、それでも塔だけはずっと残っていた。

蘇州の「虎丘の塔」や杭州の「六和塔」はよく知られているが、この方塔を知らない人が結構多い。実は上記の2塔よりも10～20年ほど早く建てられた。方塔とは日本で言う五重の塔、七重の塔で四角い塔という意味である。方塔園内に高く聳え立ち、その姿は優美かつ精巧である。望仙橋（上海地区最古の石橋）辺りから日月湖越えに臨む方塔は、一幅の絵画を観賞しているようである。

(2)方塔園

①上海方塔園導遊図（ガイドマップ）

北及び東の入口にガイドマップの掲示があり、次の30カ所の紹介がある。

1.園外園　2.北大門　3.黄浦江源石　4.児童楽園　5.天妃宮（tian1fei1gong1）　6.照壁（zhao4bi4）　7.方塔（fang1ta3）　8.

塹道（ざんどう、qian4dao4）　9.陳化成祠（chen2hua4cheng2ci2）　10.古銀杏（gu3yin2xing4）　11.明代石彫園（ming2dai4shi2diao1yuan2）　12.垂花門（chui2hua1men2）13.東大門　14.賞竹亭（shang3zhu2ting2）　15.日月湖（ri4yue4hu2）　16.何陋軒（he2lou4xuan1）17.望仙橋（wang4xian1qiao2）　18.鉄笛舫（tie3di2fang3）　19.迎仙橋（ying2xian1qiao2）　20.親水坪（qin1shui3ping2）　21.秋生亭（qiu1sheng1ting2）　22.蘭瑞亭（lan2rui4ting2）23.読錦鱗（du2jin3lin2）24.美女峰（mei3nv3feng1）　25.其昌廊（qi2chang1lang2）　26.厉廉堂（li4lian2tang2）　27.廉政文化苑（lian2zheng4wen2hua4yuan4）　28.办公区域　29.導遊办公室　30.旅客接待中心

②主要文物・建造物の概説

ガイドマップの番号順に主要文物・建造物の概要を説明する。

5.天妃宮：清代の建築であり、「媽祖（ma1zu3）」を祀る。媽祖は960年に福建省で生誕したといわれる伝説的女神である。1980年に上海市内河南路からここへ移設された。

■天妃宮に祀られる媽祖

6. 照壁：「砖刻照壁（zhuan1ke4zhao4bi4）」と呼ばれる幅6.1m、高さ4.75mの巨大な彫刻壁であり、明代1370年に松江府城隍廟内に建てられた。その一部がここへ移築され、上海市文物保護単位に認定（1987年）された。

照壁の中央には狽（ばい）（正確な漢字は獣偏に貪（tan1）である）という想像上の動物が描かれている。この頭が龍で、体は･･･の怪獣は地上のあらゆる物を奪ったがそれでも満足できず、最後には太陽を飲み込もうとして死んだといわれる。この怪獣が方塔を守護している（上海文化出版社編「民族上海・松江巻」から引用）。

科挙の超難関考試に合格して官吏になった者は、必ずこの照壁の前で戒められたそうである。私利私欲に走ると、狽のような運命が待っていると。

また一説には、怪異譚を集めた清代の「続子不語」中に狼軍師という話があり、狽が登場する。その獣は狼に似ているが、狼ではなく、「圓睛短頸、長喙怒牙、後足長而軟、不能起立、聲若猿啼」と描写されている。即ち前足が短くて後足が長いという想像上の狼の一種であり、自力では歩けず、いつも狼の背に乗って歩くそうである。

■照壁

照壁を囲んで堀の古水陸池がある。伝説では、古水陸池で鼈（すっぽん）がいつも仏経を盗み聴きして、長い間に亘り仏経を

悟って、仙人に変わったという神秘的な物語がある。
⇒　筆者から一言：照壁にはよく見ると多くの動物も彫られています。鹿、鳳凰、猿等等。動物探しも楽しいですよ。

7.方塔：　塔内には1000 年程前の宋時代の多数の文物が置かれている。別料金 5 元を払えば、5 階まで上がれる。狭い梯子様の階段のため小心小心。

■方塔と照壁

8.塹道（ざんどう）：　英語はChasm road。重厚な岩石で構築した長い石壕、敵の攻撃を防ぎ避けるための途切れた道。

9.陳化成祠：　松江県文物保護単位に認定（1985 年）。陳化成は清代道光 23 年（1842 年）、アヘン戦争で英軍と戦い戦死した清軍の将軍である。

13.東大門：　入場して右手直ぐの所に真円形の洞門がある。英語名は Moon gate、私達を温かく迎えてくれる。

■東大門

14.賞竹亭：　茅葺の東屋（あずまや）であり、ここから静かに竹林を観賞する。

15.日月湖：　方塔の南に広がる池。ボート貸出もあり、30 分間で 30 元の表示があった。

17.望仙橋：　上海地区最古の石橋であり、石材 4 本を組合せた珍しいタイプ。松江県文物保護単位に認定（1985 年）。
⇒　筆者から一言：この辺りから日月湖越えに見る方塔は素晴らしいです。絶好の撮影スポットですよ。

22.蘭瑞亭：　現存する典型的な明代松江の民家である。松江に在籍した明末の儒者「朱舜水（しゅしゅんすい、1600～1682 年）」を日中友好交流の先駆者として、1990 年に開館した記念館である。同氏は清朝成立後に明朝再興運動に参加したが失敗し、長崎へ亡命した。儒学の師として水戸藩へ招聘され、藩主の徳川光圀公（水戸黄門様）に儒学を教えた。また大日本史の編纂にも大きな貢献をした。松江県文物保護単位に認定（1985 年）。東大農学部内に「朱舜水先生終焉之地」と記された碑があり、約 330 年前の日中文化交流に温もりを感じる。

■朱舜水と徳川光圀公（水戸黄門様）

３．松江倉城（老街）

(1)概要

松江西部地区にはまだ古い街並が残っていて、市民の日常生活が窺える。松江中山路は、市内を東西に走る主要道路である。西林禅寺や清真寺を過ぎて西進すれば、松江中山中路と南北に走る西林南路の交差点に出る。更にしばらく西進すれば、南北に流れる沈泾塘に架かる秀野橋に出る。

この秀野橋から西部の玉樹路近くにある大倉橋辺りまでの約 1km の区間が、松江で保存されている老街である。この区間の道路は、松江中山西路とその南にある松江市河沿いの秀南街である。水路沿いには明・清時代の旧居も多く残っている。

さあ、秀野橋から西進して大倉橋までの老街巡りの旅に出て、明・清時代にタイムスリップしよう！

(2)老街巡り

松江市河には多くの橋が架かっている。東から秀野橋、秀塘橋、秀南橋、人寿橋、大倉橋、市河橋及び跨倉橋である。各橋にスポットを当て、老街を紹介する。

■秀野橋、秀塘橋、秀南橋

まとめて三秀橋と呼ばれる。秀野橋は中山西路に在り、少し西に行った松江市河に秀塘橋が架かる。更に少し西進した所に、松江市河から南に流れる毛竹港と呼ばれる支流があり、そこに秀南橋が在る。

秀野橋は初め木橋（元代に建造）であったが、明代洪武年間（1368 年か 1398 年？）に僧淳厚が石橋に建直し、松江府外西大街（現中山西路）の重要な橋となる。全長 29.2m、橋寛 10m、単孔式。橋自体は戦後架け直された。水路の両岸は古い景観が残り、運搬船が係留されている。

秀塘橋（古称秀州塘）は松江市河を越え、秀野橋と角を合せる。明代正統年間（1435～1449 年）に木橋から石拱橋とし跨塘橋となる。明代万暦年間（1573 年）、清代同治 13 年（1874 年）に改修している。現在の秀塘橋は 1962 年に鉄筋コンクリート造りに改建された。長さ 5m、橋寛 5m、高さ 0.8m、浄空直径 1.3m。

秀野橋の袂（たもと）に秀野橋市場があり、大勢の人で賑わっている。真ん中の高い建物の下に道があり、秀塘橋を渡り、秀南街に繋がる。中山中路から中山西路に入ると、急にローカルになる。昔ながらの古い家が今でも使われ、川辺に抜ける小路が作られている。一方では周辺で再開発が進んでおり、古い建物が壊されつつある。

往時にはこの辺りの松江市河で鱸（すずき）が獲れた。海魚の鱸（スズキ目）とは異なりカサゴ目らしいが、美味で有名であった。

引用文献の「松江と鱸（すずき）」から以下引用する。

（中略）･･･最後に松江鱸を食した国家主席李先念に至るまで多くの人々はその美味を称賛してきた。中には外国の賓客もいる。ニクソン大統領訪中の宴席で周恩来が自ら作ったメニューに松江鱸を加え大統領に振舞い（1972年）、帰国後ニクソンはその美味を改めて絶賛したという。エリザベス女王の

訪中（1986年）では魚名を「ニクソンの魚」として所望されたが、時すでに遅く魚影は江南の水域から消えていた。

■人寿橋

秀塘橋から少し西に在る永豊路近くの松江市河に架かる。絶好の布団干し場所となっている。

⇒　筆者から一言：有形重要文化財も庶民の生活に溶け込んでいますね。

■大倉橋

大倉橋は、松江で一番有名な橋で明代に建てられた石橋であり、中山西路と玉樹路の近くに在る。橋長 50m、橋高 8m、橋幅 5m、5 孔タイプ。松江県文物保護単位に認定（1985 年）されている。5 孔の橋長は、上海で 1 番が朱家角の放生橋（72m）、2 番が大倉橋（50m）である。

中山西路は再開発が進んでいるが、この辺りは古鎮らしい景色がまだ残っている。明・清代の旧宅は松江市河沿いの秀南街に集中している。昔の松江を思い出させる場所であり、多くの民家があり生活を肌で感じることができる。

間口の最も広い家は 34m、狭い家は 1m である。一番大きな民家は沈氏三宅であり、その他 3 号、6 号、9 号、36 号、42 号、43 号、52 号、56 号、60 号、68 号、79 号（沈氏二宅の前、娘の家か？）、84 号（門構えが残っている）、92 号、126 号等の民家が興味深い。

唐氏宅や張氏宅等の多くの民家が、松江県不可移動文物登記保護単位に認定(2004 年)されている。また張氏米行旧址（往時の米屋）は、松江区第三次全国文物普査・新発現文物点に認定（2013 年）されている。

川辺まで続く奥行きのある家、古い竈、江南の古家によく見られる防火壁、狭い道の両側の白壁･･･往時の姿がそのまま多く残る街並みである。

⇒　筆者から一言：古鎮好きにはワクワクする場所です。大いに楽しんで下さいね。

■市河橋

南北に走る玉樹路に架かる橋。交通量が多く幹線道路となっている。ここから東に見える大倉橋と水路風景は美しい。

■跨倉橋(雲間第一橋)

市河橋から少し西進した所に架かり、周辺の川辺には遊歩道ができている。しかし、直ぐ近くでは古い家は解体され、新しいマンション群が建ちつつある。

⇒　筆者から一言：老街と都市開発のバランスを保つ好例の試金石にしてほしいですね。因みに 9 号線・松江体育中心界隈の新築マンションの価格は、17,600 元/m2 でした。

■松江非物質文化遺産伝習基地

中山西路 266 号に在り、清代の杜氏彫花楼を整備して、内部に顧繍、書画、農機具類、生活用品等を展示している。また定期的に影絵公演等のイベントを行っている。

（本稿　文・山本和夫）

【引用文献】
・維基百科（ウィキペディア）　「方塔園」
・上海下町写真館　「上海ライブ 2013： 松江区上海方塔園　2013.11.18 撮影」
・上海旅行クチコミガイド　「上海の方塔園」
・上海旅行クチコミガイド　「上海の松江倉城」
・上海旅行クチコミガイド　「上海の松江倉城Ⅱ」
・松江と鱸（すずき）
（以上インターネットホームページより）

松江清真寺

またの名を松江真教寺とも雲間白鶴寺ともいう、上海地区におけるもっとも古いイスラム寺院である。（雲間は松江の古称。鶴の生息地であったと伝えられる）創建は元の至正年間（1341～68）、当時の群守・ダルガチ（統治者の意）に、あるいは 1295 年西域のモスリム、ナスラティンによって建てられたと伝えられる。明代の 1391 年、政府の命により再建され、以後三回の拡張を経て、清代に 4 回の修復を行った。元、明の時代のイスラム寺院の風格をよく残している。「雲間白鶴寺」の名は清楚な寺院の佇まいをよく物語っている。

寺内には歴代の石碑が４基、いまに残っている。上海政府は 1985 年より大改修を行い重点文物保護単位に指定。1989 年より対外開放された。なお清真寺とは一般的にイスラム寺院を意味し、固有名詞ではない。

主要建築物

照　　壁：照壁は古来、中国建築物の大門に置かれたもので、外壁は目印の、内壁は内庭の目隠しの作用をした。清真寺の照壁はイスラム教と漢族の文化の融合の象徴と言えるだろう。

邦克門楼：（邦克、原音？。集合、あるいは大声で呼びかける意）創建は元代。明嘉靖年間に再建され、幾度か修繕されている。邦克楼とはもともとモスリムの礼拝を召喚するために建てられたもので、アラブと中国の文化がまじりあった楼門で、全国のイスラム寺院の中でも非常に珍しいものである。楼門には精緻な彫刻のレンガと古い経文が施されている。西側の額に書かれた文は「アッラーは世のイスラム寺院の中で最も聖なるところはメッカの克白爾清真寺（カーバ神殿）であると示された」というような意味らしい。

礼拝大殿：前殿、後殿にわかれる。前殿は明代の建築物で、東に向いており、沐浴、脱靴して礼拝するべき神聖な場所である。冬には絨毯、夏には莫蓙を敷く。荘厳で穏やかな雰囲気の建築物。後殿は元代の建築物で、レンガ作りの丸天井を持ち、礼拝時にそこに向かって祈るくぼみ（最高位の聖職者が座る所）があること、十字型に細かく組まれた木材によって天井を支えていることから、俗に「穴倉殿」「梁無し殿」などと呼ばれている。元代における中国とアラブの建築芸術の融合をよくあらわしている建物である。

北講堂　：明代建築。明代のモスリム馬自強の献金によって建てられた。明史に「馬自強、明万暦 3 年礼部尚書に任ず。字体乾、同州（現陝西省）の人で、嘉靖 32 年進士となり……」の記載がある。この献金については寺内の半壊の石碑に留められている。

南講堂　：清代建築。北講堂と同じく、歴代のアホン（イスラム教の宣教師）がハリファ（修行者）やムスリムたちにコーランの講義などをする場所であり、また当地のムスリムたちの話し合いなどに使われる場所でもあった。昔時、ムスリムは寺院の周囲に一族で住んでいたので、講堂は宗教生活上重要な意味を持っていた。南講堂は現在では「松江イスラム寺院と上海イスラム教」の展示場となっている。

古　　柏：大殿北側の柏の木は明末に植樹されたもので、400 余年の歴史に耐えて尚力強い生命力を示している。明代の大将・常遇春が馬をつないだとの伝説がある。木の左側に明代の古い井戸がある。

（以上、百度の記事より抄訳、加筆）

イスラム教についてのブリタニカ大百科の説明を併記しておく。

マホメットを教祖としてコーランに基づく信仰、儀礼を持つ宗教。かつては「マホ

メット教」「回教「フイフイ教」などとも言われたが、それらは誤った呼称である。中国では「清真教」と呼ぶ。マホメットはクライシ族の出身で、５７０年ごろ生まれたとされる。４０歳ごろメッカ近郊で天使ガブリエルの声を聞いて以来、しばしば天啓を受け、アッラーの預言者としての自覚を深めた。「イスラム」とは神に帰依することを意味し、その信仰の中心はアッラー、天使、預言者、天啓、最後の審判などを信じることである。イスラム教徒は自らをムスリムと呼ぶが、ムスリムはアッラーの前では等しく平等であるとされるため、イスラムは世界三大宗教の一つになったと考えられる。イスラムは武力征服や貿易商人の力によって世界に広まり、現在ではアラビアを中心に、亜細亜、アフリカ、ヨーロッパに信者が多い。

朱舜水記念堂（補足説明）

朱舜水、名は之瑜　{1600（万暦 28）~1682（天和２）年} 中国、明朝の遺臣。浙江省余姚に生まれる。舜水は号。日本での諡（おくりな）は文恭先生。日本帰化以前の事績は明瞭ではないが、父、祖父ともに明朝の官僚で、舜水は清朝に仕えず南明の復興運動に尽力し、1649（順治 6）年そのために安南に向かったが、船は日本に到着（最初の日本訪問）した。やがて安南に行き、且つ鄭成功の復明運動に協力したが、その失敗を知り、1659（万治 2）年日本に亡命、柳河藩の安東省庵の庇護をうけた。1965（寛文 5）年、小宅生順の推挙で水戸光圀の賓客となり、光圀らの水戸学派に中国の歴史、哲学、風俗、建築などを伝えている。晩年に水戸を辞して江戸に出て没した。光圀はみずから門人と称してその著書を『舜水先生文集』と題して出版、また駒込に記念碑を建てた。以前は中国で知られていなかったが、革命の先駆者として清末の日本留学生により発掘された。（ブリタニカ国際大百科事典より抄出、加筆）

百度に「朱舜水の徳行、学問は日本の学者の礼を以て丁重に迎えられ、『勝国賓師』と尊称された。彼の日本での学生は後に中国文化研究の著名な学者となった。『舜水学」を根底とした『江戸学派』は明治維新に深く影響を与え、日本の社会と繁栄に大きな貢献をした」との記事が見える。ただし「江戸学派」は「水戸学派」の誤りであろう。滅亡した明にあくまでも忠誠を尽くし、「夷狄（清朝）」に仕えることを潔しとしなかった朱舜水の思想は、尊王攘夷の礎となった。本来は徳川将軍家の正当性と権威を確立するために、その将軍を任命する天皇の正当性と権威を高めることを目的として重んじられた朱舜水の学問が、やがて討幕運動の基本思想となって行ったのは、皮肉なことであった。

神戸にある湊川神社の「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑文は朱舜水が撰し、題字は水戸光圀によって書かれた。湯島聖堂を設計し、農事・造園・学制の指導も行ったという。朱舜水没後 300 年にあたる 1982 年には日中両国で記念の行事が行われたそうである。

■湯島聖堂

松江・朱舜水記念堂

方塔公園の西北に位置する蘭瑞堂内（楠木庁）に設けられている。明代の建築である。清初、華亭の朱春は江西巡撫を退いたのち故郷に戻り、松江の西倉橋でこの邸宅を買い求めた。1984 年、方塔公園内に移築された。堂額「蘭瑞堂」の文字は清代の著名な書家張祥和の、また入口の「朱舜水記念堂」の文字は中国仏教協会主席であった故趙樸初の筆によるものである。建物のほとんどは楠木を建材としている。区の文化財（文物保護単位）となっている。

なお朱舜水の出生地余姚市龍泉山の南麓にも「朱舜水記念堂」がある。姚江朱氏の祖廟であった建物で、清代の建築物という。

■蘭瑞亭（朱舜水記念堂）

（本稿　文・成田恵美子）

その他の散歩スポット

松江博物館

1915 年松江県教育図書館として建設されたが、その後 1984 年に方塔園横の現在地に再建された。松江地区の歴史紹介と文物の展示をメインとした博物館。館内には宋元明清代の貴重な文物が展示されている他、館外の庭園内には董其昌や趙孟頫など松江ゆかりの書家の石刻が展示されている。

雲間第一楼

元貞元年(1295 年)創建の松江府官署門。現在は松江二中の大門として復元・使用されている。一説には楼の基礎は三国時代の東呉将軍・陸遜の閲兵台であったとされる。高さ約 20 メートル、煉瓦積みの基礎を有す

る。松江府城で最高の高さの楼閣であったため、松江の古称“雲間”にちなんで“雲間第一楼”と呼ばれる。

唐経幢

唐大中 13 年(859 年)創建の陀羅尼経の刻印を有する石柱。現存する上海地区最古の建築物とされる。高さ 9.3 メートル、刻印以外に仏教にちなんだ精緻な彫刻を有する。かつては唐代華亭県城内の大通りに建てられており、現在は松江区中山小学校内に保存されている。

東岳廟

宋代尚書右丞朱諤が建築を拡張したとされる道教寺院。創建年代は不明。1964 年に大殿は取り壊されたが、2003 年に入母屋式明清建築を模して再建された。総建築面積は 1491 平方メートル、大殿は面積 653 平方メートル、高さ約 20 メートルの規模を有する。中山中路を挟んで南側には廟前街の賑わいが広がる。

酔白池

上海豫園、嘉定古漪園、秋霞圃、青浦曲水園と並ぶ上海五代古典園林のひとつに数えられ、その中で最古の創建である。
現在は酔白池公園として拡張されているが、前身は宋代進士朱之純の邸宅園“谷陽園”に始まり、明末の著名書画家・董其昌がここに“四面庁”などを建築し、さらに清朝康熙年間に著名画家・顧大申が修築を加えた。園内には邦彦画像、“十鹿九回頭”、《赤壁賦》真迹などの石刻も残されている。園内の雪海堂は民国元年(1912 年)孫文が松江視察時に重要演説を行ったことでも知られる。

程十発芸術館

中国海派書画家で松江にゆかりのある程十発(1921～2007 年)の作品等を集めた美術館。2009 年 4 月開館。明清代古建築様式の館内には古代名家書画及び氏の作品などが展示されている。ちなみに、松江地区にある春申君祠堂、雲間第一楼などの扁額の書も氏に手によるものである。館から向かって西側の通りには華亭老街の街並みが続く。

西林禅寺

南宋咸淳年間(1265～1274 年)創建。創建当初は雲間接待院と呼ばれた。院内の西林塔は創建者の圓応禅師にちなんで圓応塔とも呼ばれる。明正統年間(1436～1449 年)に明英宗から扁額を下賜され“大明西林禅寺”と名付けられた。1993 年、西林塔修復時に宋代前後の仏像や古銭などが多数発見され注目された。

韓三房（松江区中心医院内）

民国 11～14 年(1922～1925 年)建造の中洋融合様式の建物。韓三房の所有者・韓子谷が一族の 3 番目の後継ぎにあたるため、“三房”と名付けられた。また、北側には中国風庭園が設けられている。現在建物は 1949 年建造の松江区中心医院内に保存されている。

（本稿　文・東　修平）

【引用文献】

インターネット「百度」

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【収支】

当散歩の会では、すべての収支をこの会報上に記載させて頂きます。第 68 回のご報告を下記の通りにまとめましたので、ご確認のほど、よろしくお願い致します。

（収入の部）

科目	内訳	金額	備考
会費＋資料代	48 名＋資料 4 部＋飲物代	5,725.00 元	

（支出の部）

科目	内訳	金額	備考
食事会会費＋龍華寺入場料＋雑費	48 名＋資料コピー代	3,550.00 元	

（収支）前回繰越金 616＋収入 5,725 元－3,550 元＝2,791 元（次回繰越金）

【皆さんからのコメント】

今回は第 68 回歴史散歩（龍華寺・烈士陵園）館に参加された方々のアンケートを掲載致させていただきます。今回もたくさんのお言葉を頂きましたの。ありがとうございます！

＊　龍華寺には前から行ってみたいと思っていたので、この企画はとても嬉しかったです。自分ではここまで詳しく調べることができないので、資料のご準備など本当にありがたいです。烈士についてもよくわかりました。龍華寺には今度知り合いを連れていきたいと思います。

＊　お寺や仏教等、日本と異なるところも同じところも有り、とてもおもしろかったです。資料が詳しく、お寺の門や石像一つ一つも興味深く見ることができました。

＊　今回初めて参加させていただきました。事前に資料をいただいていたのと、当日も説明を詳しくしてくださったのでとても楽しかったです。ありがとうございました。

＊　今日も楽しかったです。ご飯もおいしい！　前回の武康路も行けなくて、本当に残念です。またフランス租界にも是非行きたいです。

＊　老房子以外にも、お寺の散歩ということで新鮮でした。

＊　とても詳しい資料と説明でよい勉強になりました。龍華寺は 3 回目、烈士館も 2 回目ですが、中国の方（馮さん）からの説明、見方は、これまでと違う感じ方をしました。食事の時の馮さんのお話しには感心しました。（若い頃からの向学心）

＊　上海に来てまだ日が浅いので、色々と説明を聞きながら見学、散歩することが出来て、とても勉強になりました。

＊　毎回楽しくためになる会を主催して頂きありがとうございます。毎回、告知から締め切りまでがかなりはやいので、気をつけて頑張って参加します。これからもよろしくお願いします。

＊　久しぶりに参加出来ました。日本人学校の先生方も若い方が多く、若々しい！！楽し

く思います。

＊　初めて参加しました。一人ではわからないような歴史についてふれることができました。今まであまり興味なく、今回も紹介できましたが、きてみると普段通っている道にもいろいろな歴史があると知り、また次回も参加したいと思っています！！

＊　本日はありがとうございました。赴任して半年になりますが、このような会に参加できて良かったです。日本の文化が中国の影響を受けていることを改めて確認するとともに、近代史の重み（今の中国が作られた背景）を知ることが出来て良かったです。

＊　丁寧な資料作り、ありがとうございます。お寺めぐりは初めてですが、資料と説明（言葉の）があり、とても分かりやすかったです。中国の正月の混雑している時にでも、また訪れてみたいと思います。

＊　新旧の歴史を学ぶという目的にあった会になったと思います。今日も「雨が降らない会」というジンクスを継続することが出来て良かったです。

＊　お寺の装飾が美しくて楽しめました。烈士の話など、日本にない文化を学べて、楽しく興味深い旅行になりました。

＊　今日から事務局仕事でゆっくり見られなかったけど、すごく良かった！！馮さんの説明が進化してたし、成田さんの解説があったのでみなさんも入りやすくなっていました。特に馮さん！日本人目線まで合わせて話すのは大変だったと思います。でも私達がもっと中国の民主主義を理解できるようになりました。お疲れ様でした！！　（事務局・入江さん）

＊　今回も首尾良く終えることが出来ました。事務局のみなさんお世話になりました。これまでと異なる趣向でした。一つの個所、テーマを深く掘り下げる内容でした。馮さんありがとうございました。今後の試金石になりますね。（事務局・山本さん）

気になる歴史上の人物

＊今回の烈士に関連して『色・戒』（ラスト・コ―ション）のモデルになった人
＊陳毅元市長など、近代の政治家
＊毛沢東、孫文、蒋介石　＊張作霖、張学良
＊宋氏三姉妹　＊鄧小平　＊山口淑子　＊西大后
次回行ってみたい場所は

＊上海から少し遠い所　＊嘉定区、南翔寺、古猗園など
＊フランス租界、新天地、淮海中路
＊昔行かれたと思いますが、もう一度バンド周辺に行きたいです

＊虹口区　＊松江
＊上海の裏社会の歴史のあるところ、キリスト教の歴史のあるところ
＊ユダヤ人街、横店の映画村
＊裏外灘

【前回の記念写真】

今年 4 月 20 日に開催しました第 68 回上海歴史散歩「龍華寺・烈士陵園編」の写真を掲載します。

■龍華寺（龍華塔は 977 年創建）を訪ねる。

■烈士陵園入口にて。